

上觀の際は別に路費二百二十兩を受く。此地より天山麓に四日程、南山へは約四里餘とす、天山麓には松樹多く、木炭及鐵を産すと。予は此地に滞在すること一日十三日午後六時二十五分を以て發し翌日午前一時三十分前日と略々同一の行程を以て、庫什塘(或は大黒米子)に着す。

道路は初め約三里間は河川多く、次で四里餘は沙磧地にて唯其の中央に一小部落あるのみ。其れより、以西は耕地相續ぎて庫什塘(或は大黒米子)に接す。此地の人家は、附近を合せて約百戸。

二、地方の奇病

伊犁出發以來、各地氣候の變化甚し。是に於てか其の流行する所の病症も自ら異なるに似たり。伊犁附近は胃病及一種の熱病(大貝子)ありて六、七月頃より流行し初めは腰痛みて起つ能はざれど九月頃に至れば自然に平癒すと。喀喇沙爾地方は小兒に咽喉病及麻疹夥し。是等は畢竟其地の氣候に原因するならん。然れども獨り拜城地方に至りては、咽喉下に袋狀の大瘤ある男女を見ること多し、葉爾カンド羌地方殊に多きを加ふと。清人は之を臙袋子(ツイタイズ)と稱し、土人は「ポーハッカ」と名づく。